

# 蘇る記憶

神戸 → 京都 日帰りの旅



以前訪れたことのある京都、伏見稲荷神社。Nさんにとっては千本鳥居が印象深い、思い出の地だ。

夫は生前20年もの間、右半身不随の状態でも過ごした。その夫も伏見稲荷を訪れたいと強く願っていた。だが、その願いが遂げられることは、ついぞなかった。

そんな夫が大切にしていたのが神棚。お供えを欠かさず、掃除を忘れる日もなかった。手を合わせて深々とおじぎをする夫の姿が、今も不意に脳裏に蘇ることがある。

ある日、ふと神棚が目に入った。

夫がいなくなってからというもの、誰も世話をせず、昔と何一つ変わらない姿のまま、そこに残っていた。

「伏見稲荷神社へ行こう」Nさんはそう思い

立った。

娘さんはNさんの時々出る認知症の症状を心配していた。少し人見知りをしたときなどに、パニックになることがあるからだ。

依頼をいただいた後、私たちはすぐに娘さんやケアマネジャーさんたちと相談、旅行前に何度かご自宅を訪問することにした。エスコートヘルパーの声や雰囲気慣れていただき、できるだけリラックスした状態で旅行当日を迎えてほしいからだ。

また、普段は少しの距離なら歩けるというNさんが、千本鳥居までたどり着き、無事通れるのか。そんな不安もあった。

そこで、事前に下見を行い、車いすでも雰囲気を感じられるコースを考えた。そして旅行当日、Nさんが声をかけてくださった。

「いつもお世話になっている兄ちゃん、今日は頼むね！」

うれしさが込み上げてくると同時に、楽しい一日になるという期待も膨らんだ。

お宮参りした後、千本鳥居を通る N さん。生前のご主人の記憶を少しずつ蘇らせているようで、いつもと違う笑顔がこぼれていた。あきらめていた旅行、あきらめていた伏見稲荷への参拝も叶い、昔の思い出に浸ることができたのだ。

ご自宅に到着し、家の中までお見送りした。帰路に着こうとバックミラーを覗くと、普段は一人では歩こうとしない N さんが玄関から出てくるのが目に入った。

そして車に向かって一生懸命手を振ってくださっていた。その姿は見えなくなるまでずっと続いていた。

## 担当者コメント

人見知りの激しいお客様でしたが、旅を通して心と心が通じ合ったいい旅行になりました。

**介護度** 要介護 4

**年齢** 83 歳

**行先** 京都伏見稲荷

**同行** エスコートヘルパー 1 名



伏見稲荷のパンフレットを元に写真とイラストで表した MAP を作成しました。

境内のバリアフリートイレや車いすでも通れるルートをご説明し、お客様に安心して境内を散策していただくためです。

どこにどんなバリアがあるのか、また、どのようにすればそれらが取り除けるのかも説明し、お客様のご要望と擦り合わせながら回る場所も決めていきます。

このような方法は時間はかかりますが、お客様にも納得していただける、オリジナルのプランができあがります。

## 時間

## 行程

8:50	介護タクシーがご自宅にお迎え
9:00	ご自宅を出発
10:30	伏見稲荷大社に到着 ご参拝・ご散策など
12:00	伏見稲荷大社を出発
12:30	ご昼食 ご散策など
13:40	伏見の酒蔵街を出発
15:00	ご自宅に到着
15:10	介護タクシーが帰社